

敬大SPORTS Vol. 17

● 敬愛大学体育会発行 ● 〒263-8588 千葉市稲毛区穴川1-5-21 TEL.043(251)6363 ● March 23,2019

CONTENTS	
Page	
1	鎌田光津希インタビュー
1	体育会会長 あいさつ
2	宇木博己インタビュー
2	バレーボール部/野球部
3	少林寺拳法部/硬式テニス部
3	極真空手世界一
4	敬愛大学体育会活動報告会

育成1位指名で千葉ロッテマリーンズへ

2018年10月に行われたプロ野球ドラフト会議で、育成1位で指名を受け、千葉ロッテマリーンズに入団した敬愛大学出身の鎌田光津希選手。ロッテ浦和球場を訪ね、意気込みや今後の目標などを聞いた。

意識が変わり155キロをマーク

2018年春に発行した「敬大スポーツ」のインタビューの中で、「努力は薄い布を一枚一枚積み重ねていくようなもの。一枚は薄くても、重ねていけば、きつといい結果が待っているはず」と語っていた鎌田選手。敬愛大学卒業後に入団した徳島インディゴソックスでは、ルーキーイヤーとなる昨年、17試合に登板して4勝をマーク。リーグ3位となる79個の三振を奪うという結果を出した。なかでも、徳島での最も大きな収穫は球速が155キロまで上がったことだといふ。

「大学時代から、コントロールを意識するあまりコーナーの四隅を狙って投げていました。それでフォームが縮こまっていたんでしようね。石井貴監督(現・東北楽天ゴールデンイーグルス2軍コーチ)から『お前はそういうピッチャーじゃないだろ。インとアウトの2分割で思い切っ



鎌田 光津希
Kamata Mizuki

Profile
1995年9月生まれ、千葉県出身。匝瑳市立野栄中学、横芝敬愛高を経て敬愛大学経済学部に入部。2018年3月敬愛大学卒業後は、四国アイランドリーグplusのトライアウトを受け徳島インディゴソックスに入団。右投右打。身長180センチ、体重91キロ。

© CHIBA LOTTE MARINES



て投げろ」と喝され目が覚めました。そこから球速が上がり、大学時代から6キロも上がって自分でも驚きました。」

練習も試合も全身全霊で

クセのあるストレートと、徳島入団直後にマスターしたナックルカーブはアウトの目にとまり、今季ロケットに育成選手として入団することになった。

「これまで通りコツコツ努力を重ねて、まずは球団の支配下選手となり2ケタの背番号をつけられることを目指します。ストレートの球速を155キロから157〜158キロまで伸ばし、自分の武器がどこまで通用するか挑戦してみたいですね。」

目標とする選手はジョニー黒木の愛称でも知られる元ロッテの黒木知宏投手だ。「『魂のエース』といわれる黒木投手のように、闘志のこもった投球をしてみたいです。僕の好きな言葉は全身全霊。試合も練習も全身全霊で取り組みます。」

最後に、敬愛大学の学生へのメッセージを伺うと「僕は高校卒業時に、徳島から獲得の意思表示を受けたのですが、大学に進学しました。そして4年後、再度徳島からお誘いをいただいたり入団を果たしました。大学時代は、故障で勝ち星から遠ざかったこともありました。そんな風に遠回りすることも壁にぶち当たることもあるでしょうが、やりたいことから目を背けないで、まずはやってみるといいと思います」と語りくれた。これからも鎌田選手の活躍に期待したい!

2018年度 敬愛大学体育会所属クラブ活動報告(大会結果等)一覧

- 2019年1月21日現在
- 少林寺拳法部 ▶ (強化クラブ)**
- 第55回少林寺拳法関東学生大会 (5月4日 日本武道館)
 - 予選 単独有段の部 近藤 4位 金谷 15位
 - 予選 男子三段以上の部 伊東・及川組 8位 鶴澤・関口組 9位
 - 2018年度千葉県大会 (7月8日 船橋アリーナ)
 - 大学生有段の部 鶴澤・関口組 本選出場 及川・伊藤組 優良賞(3位)
 - 高校生・大学生単独有段の部 近藤 優秀賞(2位)
 - 第70回少林寺拳法千葉市民大会 (9月9日 古市場体育館)
 - 一般有段の部 近藤 優秀賞(2位)
 - 一般段外の部 グエンティ ホンゴック 8位
 - 一般有段演武の部 及川・伊藤組 最優秀賞(1位) 関口・鶴澤組 優秀賞(2位)
 - 第16回少林寺拳法関東学生新人大会
 - 単独有段の部 近藤 本選7位
 - 一般段外の部 グエンティ ホンゴック 予選15位
 - 男子有段の部 及川・伊藤組 本選8位
 - 第52回少林寺拳法全日本学生大会 (11月4日 日本武道館)
 - 男子組演武三段以上の部 及川・伊藤組 予選9位
 - 男子二段の部 近藤 予選7位
 - 女子段外の部 グエンティ ホンゴック 予選11位
- 女子バレーボール部 ▶ (強化クラブ)**
- 平成30年度春季関東大学女子2部リーグ戦 (4月~5月 大東文化大学他) 5勝2敗 4位
 - 【個人賞】
 - ブロンズ賞 古川 ほのか(3年) サーブレシーブ賞 佐々木 葉那(1年)
 - レシーブ賞 オナイウ 里奈(4年)
 - 第37回東日本バレーボール大学選手権大会 (6月21日~ 大田区総合体育館)
 - 1回戦 育英大学短期大学 0-3 敬愛大学
 - 2回戦 嘉悦大学 3-0 敬愛大学
 - 平成30年度秋季関東大学女子2部リーグ戦 (9月~10月 大東文化大学他) 6勝4敗 3位
 - 【個人賞】レシーブ賞:オナイウ 里奈(2回目)
 - 第65回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会 (11月 大田区総合体育館)
 - 1回戦 武庫川女子大学 1-3 敬愛大学
 - 2回戦 天理大学 3-0 敬愛大学
- 野球部 ▶ (強化クラブ)**
- 平成30年度千葉県大学野球春季リーグ戦<1部> (4月~5月 ZOZOマリスタジアム他) 6勝5敗 勝点3 3位
 - 【個人賞】ベストナイン 一塁手 石原 昂
 - 平成30年度千葉県大学野球新人戦 (6月 長生の森球場他)
 - 1回戦 東邦大学 5-9 敬愛大学
 - 2回戦 東京情報大学 2-0 敬愛大学
 - 平成29年度千葉県大学野球秋季リーグ戦<1部> (9月~10月 長生の森他) 4勝8敗2分 勝点2 5位
 - 【個人賞】ベストナイン:二塁手 天野 勇介 新人賞:石原 昂
- 硬式テニス部 ▶ (育成クラブ)**
- ◆男子成績
 - 関東学生テニストーナメント大会<個人戦> (4月~5月 各大学テニスコート)
 - 【男子ダブルス1次予選】 2回戦進出 井上・太田組、向後・小長組、奈良岡・西念組
 - 【男子シングルス1次予選】 3回戦進出 渡邊
 - 千葉県学生テニス対抗戦 <団体戦> (5月~7月 各大学テニスコート)
 - 【男子2部リーグ】※4部リーグ制
 - 1回戦 対 千葉工業大学 4-5 敗退
 - 2回戦 対 流通経済大学 5-4 勝利
 - 3回戦 対 東京成徳大学 相手の事情により不戦勝 2勝1敗 2部2位(6位/18大学中)
- 関東学生テニスリーグ<団体戦> (8~9月 各大学テニスコート)
 - 【男子7部リーグ(予選)】※7部リーグ制
 - 1回戦 対 大東文化大学 4-5 敗退
 - 2回戦 対 武蔵野大学 7-2 勝利 1勝1敗 予選敗退
- 関東学生テニス対抗戦<団体戦> (11月中 各大学テニスコート)※無差別リーグ
 - 【男子Aチーム】
 - 1回戦 対 上武大学(3部A) 0-5 敗退
 - 2回戦 対 埼玉大学(7部A) 5-0 勝利
 - 3回戦 対 武蔵野大学(7部A) 棄権(千葉県学生テニストーナメントと被ったため) 1勝2敗
 - 【男子Bチーム】
 - 1回戦 対 國學院大学(7部C) 1-4 敗退
 - 2回戦 対 創価大学(7部A) 棄権(千葉県学生テニストーナメント大会と被ったため) 敗退
 - 3回戦 対 東海大学(2部B) 0-5 敗退 0勝3敗 予選敗退 実力:A>B>C
- 千葉県学生テニストーナメント大会<個人戦> (11月~2月 各大学テニスコート)
 - 【男子ダブルス予選】 本選出場 池ノ谷/佐久間組(Cブロック1位)、太田・深澤組(Bブロック4位)
 - 【男子シングルス予選】 本選出場 池ノ谷(Bブロック4位)
- ◆女子成績
- 関東学生テニストーナメント大会<個人戦> (4月~5月 各大学テニスコート)
 - 【女子ダブルス1次予選】 2回戦進出 直江・千葉組
 - 【女子シングルス1次予選】 2回戦進出 直江、千葉、中山
- 千葉県学生テニス対抗戦<団体戦> (5月~7月 各大学テニスコート)
 - 【女子リーグ】
 - 1回戦 対 明海大学 大会規定にのっとり不戦勝
 - 2回戦 対 流通経済大学&麗澤大学連合 大会規定にのっとり不戦勝
 - 3回戦 対 千葉工業大学&帝京平成大学連合 6-1 勝利
 - 順位決定戦 対 東洋学園大学 0-7 敗退 準優勝 ※10大学中2位(連合チーム含む)
- 関東学生テニスリーグ<団体戦> (8~9月 各大学テニスコート)
 - 【女子5部リーグ(予選)】※5部リーグ制
 - 1回戦 対 千葉大学 1-6 敗退
 - 2回戦 対 都留文科大学 2-5 敗退 0勝2敗 予選敗退
- 関東学生テニス対抗戦<団体戦> (11月中 各大学テニスコート)※無差別リーグ
 - 【女子】
 - 1回戦 対 成城大学(5部A)&東京経済大学(5部A) 1-4 敗退
 - 2回戦 対 山梨学院大学(1部A) 0-5 敗退
 - 3回戦 対 東洋大学(4部A) 0-5 敗退 0勝3敗 予選敗退
 - ※7人制の団体戦に対し、6名しか女子部員がいないため、千葉商科大学(1名)と連合チームとして出場 実力:A>B>C
- 千葉県学生テニストーナメント大会<個人戦> (11月~2月 各大学テニスコート)
 - 【女子ダブルス予選】 本選出場 直江・中山組(予選2位)、越田・江波戸組(予選3位)、千葉・杉田組(予選3位)
 - 【女子シングルス予選】 本選出場 杉田(Bブロック1位)
- 軟式野球部 ▶**
- 平成30年度東関東大学軟式野球春季東リーグ戦 (3月~5月 ナスタジアム他) 0勝4敗1分 勝点1 6位
- バスケットボール部 ▶**
- 第58回関東大学バスケットボール新人戦
 - 1回戦 淑徳大学 不戦勝
 - 2回戦 武蔵大学 102-68 敬愛大学
 - 第94回関東大学バスケットボールリーグ戦 (9月8日~10月7日 千葉工業大学習志野キャンパス) 1勝6敗
- フットサル部 ▶**
- 平成30年度千葉県フットサルリーグ (4月~12月 千葉大学他) 7勝4敗 3位
 - 【個人賞】得点ランキング1位 加瀬 雄大 ベストファイブ選出 加藤 雄大

敬愛大学体育会 活動報告会開催

2019年1月22日(火)「敬愛大学活動報告会」が開催されました。開会挨拶として、覺正学生部長が挨拶を行い、参加した学生に向けて「年間頑張ったという姿勢は充分に感じられた。残念ながら祝賀会ならずという結果に終わったが、この報告会を通じて体育会としてのような努力を求められているのかを各々が感じてもらい、スポーツマンであることの誇りを持って来年度に向けて取り組んでほしい」と励ましの言葉がありました。

また、2017年度卒業の野球部、鎌田光津希さんが、敬愛大学として第一号のプロ野球選手となったことも報告にありました。

次年度においても、体育会丸となって学業部活動を文武両道で邁進していくことを胸に、報告会は終了しました。



スポーツと反則



会長 あいさつ

今年の大学スポーツで発生した大きな事件は、日大アメフト部員による反則行為でした。この反則行為により相手選手の負傷だけでなく、責任者として監督やコーチが辞任し、更には大学全体の危機管理体制が問われる事態となりました。スポーツはルールに則って競われる活動であり、ルールが無いと競技として成り立たず面白みも楽しみも生まれません。他方で、アメフトやラグビーのように重量級の選手が激しく接触・衝突する競技には、不要な怪我を防ぐための特別なルールがあります。アメフトでは「不必要な乱暴行為」を禁じており、今回は無防備な状態での背後からのタックルという悪質な乱暴行為であったので、特に注目されました。

本件は、指導者がそのプレーを指示していないと責任を回避したため、各方面から非難が上がり問題を拡大しました。若し指示に反するプレーならば、選手に対して直ちに注意があつてしかるべきところ、それがなかったことで指導者の方針や指導に問題があつたと思われまます。しかし、指示の如何に拘わらず危険な反則を意図して行った選手にも問題はあつたと考えます。大学スポーツにおいて勝つための努力は大事ではあるものの、手段を選ばない勝利至上主義はあり得ず、教育活動の一環としてスポーツマンシップ精神を学ぶことは、より重要だと思えます。

なぜ入部したの？ 練習はどんな感じ？ 部内の雰囲気は？ 体育会強化クラブ・体育会育成クラブに昨年入部した1年生のリアルな声を紹介!!

体育会強化クラブ 国際学部こども教育学科1年 バレーボール部 小山 恭実

強豪大学との練習試合で課題を実感 躍進の鍵はコミュニケーションにあり

北海道出身で、小学校のときにバレーボールを始めた小山さん。中学校入学と同時に親元を離れ、道内のバレーボール強豪校、札幌大谷中学校・高等学校に進みインターハイや全国大会を経験、主将も務めた。大学でもバレーがしたいと考えていたところ、高校の顧問の先生に勧められて敬愛大学の入学を決めた。強豪校に在籍していた小山さんだが、大学と高校の違いに当初は驚いたのだという。

「北海道では道内の高校との練習試合がほとんどでした。でも敬愛大学は千葉県にあるので、県をまたいで関東全域の強い大学と練習試合ができますし、1部リーグの大学と練習試合をすることもあります。強い大学との練習試合では悔しい思いをすることも多いのですが、自分たちに足りないものは何か考えるきっかけにもなりますし、励みにもなります。バレー部は今年、春季大会4位、秋季大会3位で2部残留を決めています。満足していません。あと少しで1部に手が届くという実感がありません。そのため目下私が練習の課題としているのは、

コミュニケーションです。私はセッターなので、アタッカーとのコミュニケーションを円滑にしたいと思っています。」



バレーボールに燃える小山さんだが、敬愛大学を選んだのは、国際学部でも教育学科で教員免許が取れることも大きかった。「将来は小学校の教員になるという夢を持っています。ですから、バレーもできて教員免許も取得できる敬愛大学は私にとって絶好の環境です。子どもの頃から今まで、私が出会った先生方はみな素晴らしい方ばかりで、先生方から自分で考えて行動するこの大切さを学びました。先生はアドバイザーしてくださるけれど、考えるのも決めるのも結局は自分です。そのスタンスは私の核になっています。私が教員になったときにも、子ども自身が主体的に考えて、動けるようなクラスを作りたいですね。もちろんバレーも教えたいと思っています。」

1部リーグ昇格と教員免許取得、小山さんは2つの大きな目標に向かって邁進中だ。

体育会強化クラブ 経済学部1年 野球部 大崎 黎

強豪と対戦できる環境に感謝 球速、防御率のアップを目指して 計画的なウエイトトレーニングを実践中

2018年度千葉県大学野球で春季1部3位、秋季1部5位で、1部残留を決めた野球部。大崎さんは1年生ながら先発投手として活躍し、春季3勝1敗、秋季2勝4敗の成績を挙げた。「秋のリーグ戦前、秋は葉が痛みを抑えての登板でした。勝つたら腰を痛めて、秋は2勝2敗の成績を挙げました。それが悔しくて、ふがなくて、コーチに頼んでウエイトトレーニングを教えてくださいました。体幹を鍛えているところです」と語る大崎さん。和歌山県出身で、智弁和歌山高校時代は甲子園で2回戦まで進み、大阪桐蔭高校に惜敗した経験を持つ。

「高校時代の練習はとにかくハードで、こなすが精一杯でした。いい面もありますが、自分で考えて計画性を持ってトレーニングをする余裕はありませんでした。今は、3・4年生になったときに今より上のレベルのピッチャーになることを目指して、自分でトレーニングを組み立てて取り組んでいます。それが大学で野球をすることと高校での野球の番の違いだと思います。目標はやはり今145キロの球速を150キロまで伸ばすこと、そして3.5の防御率を限りなく0に近づけることです。」



1部常連の敬愛大学だが、1部優勝はまだない。千葉県大学野球の1部リーグは全国大会で準優勝をした経験がある大学が名を連ねるなど強敵がひしめいているのだ。「そのことはむしろメリットだと思っています。一筋縄ではない強豪との対戦は実力を上げる最大のチャンスですから、対戦できる環境であることに喜びを感じています。敬愛大学を助めてくれた智弁和歌山の監督にも感謝しています。」

大学で野球をするようになって、野球への向き合い方や生活へのスタンスも変わった。2年生になる今年は、チームを引っ張っていく自覚も芽生えているのだという。

「高校時代の僕は子どもで、自分に甘かったなと思います。休みの日は遊んだり、体が故障しても何とかなるだろうと高をくくっていた面がありました。でも今はケガをしないように筋力をつけたり、生活のすべてにおいて野球を優先しています。」

敬愛大学念願の1部優勝に向けて、大崎さんの挑戦は続く。

体育会強化クラブ 経済学部1年 少林寺拳法部 伊藤 優太

少林寺拳法上達の秘策は初心者に教えること 礼儀作法も身につけて、友だちも増える!!

横芝敬愛高校時代から少林寺拳法に取り組み、高校3年時に千葉県代表として全国大会への出場も果たしている伊藤さん。入部1年目の昨年は、及川さんとペアを組み、千葉県大会大学生有段の部本選で優良賞3位、千葉市民大会一般有段演武の部で最優秀賞1位、関東学生新人大会男子有段の部で本選8位、全日本学生大会男子組演武三段以上の部で選9位という大健闘をしているが、目標はあくまでも優勝のみにとどまらず、「そのための最大の課題は部員を増やすことです。今部員は5名で、そのうち1名の女子留学生は初心者ですが、あとは全員黒帯です。少林寺拳法は、初心者に教えることで、教わる人が伸びると同時に、教える側も成長できるという側面があります。ですから、まず初心者の部員を増やすのが部内での僕の使命です。」

少林寺拳法は武道であるため、格闘技に近いイメージを持つ人も少なくないが、実際には空手や柔道といった勝ち負けを争う武道とは少し違う。競技は習得した技を組み合わせて行う



演武で技術の正確性や武的要素を採点される採点競技なのだ。「組になって演武をする少林寺拳法では、人とのつながりが大切で、それが演武にも表れます。人と人の関係性を大切にすることで、部内の雰囲気も明るくて楽しいですし、大会や合宿で他の大学の人と出会って友だちになるケースもよくあります。少林寺拳法を始めた友だちが増えたという人も多いんですよ。」

2年生となる来季、伊藤さんが優勝を果たすために必要なのは自信。その自信を身につけるために不可欠なのが、少林寺拳法の基本でもある人とのつながりや礼節を重んじることだ。

「新しく入ってくる後輩との関わり方とか、トイレ掃除や床磨きをするというような作務人の役に立つというような道徳心、そういったつひつひつを初心に立ち返ってきちんとすることが自信につながっていくのではないかなと思います。でも、新入生にはそこまで求めないで気軽にやってきてほしいですね」と笑顔を見せた伊藤さん。大学に入ってから勉強以外にも何かやってみたい、友だちを増やしたいと考えている新入生は、一度見学に訪れてみてほしいかなだろうか。

体育会育成クラブ 経済学部1年 硬式テニス部 江波戸 杏奈

学生主体で部活を運営 部活を通じて社会人力の養成

「最初は大学で部活に入部する予定ではなかったのですが」と語る江波戸さんが、敬愛大学硬式テニス部に入部したのは、体験練習会に参加したことがきっかけでした。「高校では硬式テニス部に入部しており、大学の練習は興味があり一度だけ参加してみようと思いましたが、硬式テニス部の第一印象は先輩後輩男女関係なくみんなが仲良くとても楽しい雰囲気を取り、いざ練習が始まると空気が変じ、真剣に練習に取り組まなければならぬという実感があって、是非入部したいという気持ちになり、入部することにしました。」

一般的に高校や大学での部活は男女別々に練習します。しかし、敬愛大学硬式テニス部は男女が一緒に練習することが特徴です。千葉県学生テニス対抗戦(団体戦)では男子2部準優勝(6位18大学中)、女子準優勝(10大学参加中)と結果も出ています。江波戸さんはバレーのある男子と練習したことで相手の球に押し負けない技術が向上しました。その結果、昨年の千葉県学生テニストーナメント大会(個人戦ダブルス)では本戦

目標は千葉県内大学女子No.1



「2年生になるにあたり、更なる成績アップを目指しているが、実はそれだけではなく、部員全員が硬式テニス部という組織を運営するために役割分担をし、主体的に活動していることもポイントです。」と語る江波戸さん。

「主将、副主将、書記や会計がそれぞれ責任をもって部を運営しています。日々の練習や合宿(夏・秋・春の白子町)、練習試合の交渉も部員達で行っています。また、ネット連絡のマネージャーや外務の方々の敬語なども学び、高校生の頃とは比喩にならないくらい社会人力が身につけてきました。」

4年の先輩達が抜けてからは女子部の副主将として活躍が期待されている江波戸さん。「男女を上手くまとめているか不安ではありますが、部員達に協力してもらいながら良い部活にしていきたいです。特に女子は2019年度千葉県学生テニス対抗戦では優勝を狙っています。」

敬愛大学硬式テニス部に入部後、高校時代とは比喩にならないほど視野や世界が広がり、人として成長していることを江波戸さんは身をもって証明しています。

退任にあたって、みなさんに伝えたいこと



女子バレーボール部 監督 宇木 博己

厳しさの先にあるもの 懸命になろうぞ強くになれる

2011年3月に創部した敬愛大学女子バレーボール部。その立ち上げに寄与し、8年間監督を務めてきた宇木先生。2019年3月で退任されるにあたり、これまでの思い出や、スポーツに取り組み選手たちへの思いについて聞いた。

「私は千葉県内で長く県立高校の校長を務めていたこともあって、敬愛大学では当初、入試広報センターに在籍して、県内の高校を回って大学をPRする役割を担当していました。そんななか、大学の発展のためにスポーツを強化する方針が打ち出され、バレー部の監督を打診されたのが創設のきっかけです。選手層が厚い他大学に比べ、ゼロからのスタートでしたから、どうにかチームを形にしたいと、厳しい指導をしたこともありました。」



熱心な指導の甲斐あって、8年間の公式戦での戦績は、101勝43敗2分で、勝率は71%を誇る。

「創部1年目から「格下の敬愛大学が強い部を脅かした」とバレーボール専門誌にも取り上げられるほどの活躍を果たしました。3年目は関東9部と8部で全勝優勝を飾り、2015年には2部昇格を果たすなど、部員たちは本当によく頑張ってくれました。部員はきつと私のことを鬼監督と恐れていたのではないのでしょうか(笑)。確かに私の指導は厳しいと思います。」

「格下の敬愛大学が強い部を脅かした」とバレーボール専門誌にも取り上げられるほどの活躍を果たしました。3年目は関東9部と8部で全勝優勝を飾り、2015年には2部昇格を果たすなど、部員たちは本当によく頑張ってくれました。部員はきつと私のことを鬼監督と恐れていたのではないのでしょうか(笑)。確かに私の指導は厳しいと思います。」

「格下の敬愛大学が強い部を脅かした」とバレーボール専門誌にも取り上げられるほどの活躍を果たしました。3年目は関東9部と8部で全勝優勝を飾り、2015年には2部昇格を果たすなど、部員たちは本当によく頑張ってくれました。部員はきつと私のことを鬼監督と恐れていたのではないのでしょうか(笑)。確かに私の指導は厳しいと思います。」



福岡県立伝習館高等学校在校生にバレーボールでインターハイ出場。順天堂大学卒業後、体育の教員になり部活動の顧問も担当。習志野市立習志野高等学校および船橋市立船橋高等学校で計23年間、バレーボール部監督を務めた。

この間、両校を全国大会に39回導き、1989年の「はまなす国体」(北海道)では準優勝。また全国高校総体では2回、全国選抜大会でも2回の全国大会3位に導いた。この間、オリンピック選手、全日本選手も多数輩出している。

1994年からは千葉県体育協会 競技スポーツ課を経て、千葉県立小見川高等学校および千葉県立船橋東高等学校の校長を歴任。また千葉県競技力推進本部普及育成強化部委員、千葉県バレーボール協会副会長、セネラルマネージャーとして、千葉県および千葉県バレーボール協会の強化に尽力した。

これまでに全国高等学校体育連盟バレーボール専門部、日本バレーボール協会、千葉県体育協会、日本体育協会(現日本スポーツ協会)から、数多くの表彰を受賞している。

極真空手世界大会で優勝!

2018年 11月3日~4日 健康さんが見事優勝を果たしました。日頃の鍛錬の成果が、世界の舞台で結果として現れました。

連盟「主催」第2回極真世界選手権大会(70kg級)において、経済学部1年生の大場 健吾 さんが見事優勝を果たしました。日頃の鍛錬の成果が、世界の舞台で結果として現れました。

普段は東金市の道場で練習を行う大場さん。文武両道、これからの活躍に注目していきます。

Kyokushin World Federation 極真世界